

仕様

● モーター部

型式	クォーツロック コアレス DC型 FG サーボモーター
駆動方式	ダイレクト ドライブ
回転数	33⅓回転、45回転
回転ムラ	0.02% (WRMS) 0.01% (WRMS/回転部 K&K 測定法)
S/N	78dB 以上 (DIN-B)
速度検出方式	周波数検出方式 (FG-方式)
起動トルク	1.2 kg・cm
ドリフト	0.0001%/H
電圧特性	0% (±10V)
温度特性	0.00005%/℃
ターンテーブル	32 cm

● トーンアーム部

型式	エレクトロ ダイナミック サーボ方式 ダイナミック バランス型 トーンアーム
有効長	245mm
トラッキング エラー	+1°48'、-1°31'
オーバーハング	15mm
針圧可変範囲	0～3g (0.25g ステップ直読式)
シェル込重量範囲	14.5～25g (ヘッドシェルの重量 13g)
アーム高さ可変範囲	45mm～51mm (48mm にセット)

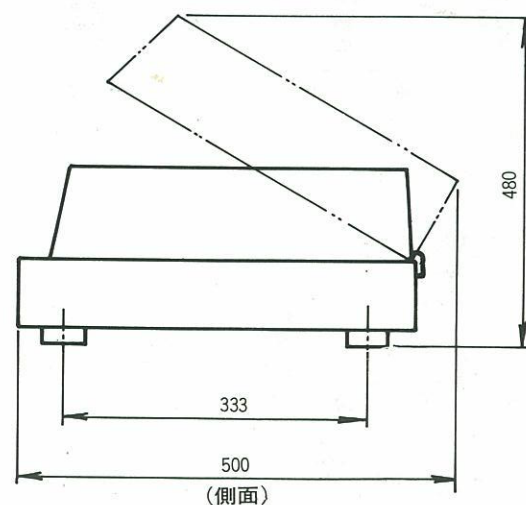
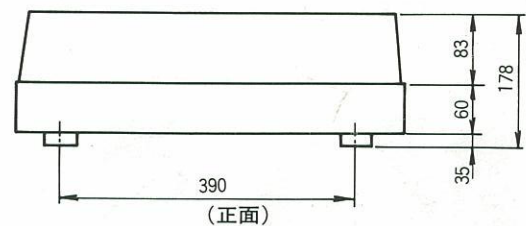
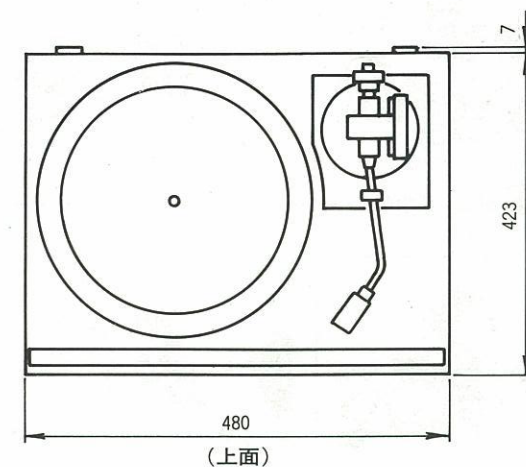
● 電源部・その他

電源電圧	AC 100V (50Hz、60Hz 共用)
消費電力	POWER ON時：13W (演奏中・50Hz/60Hz) (⊕電気用品取締法基準) 19W (ターンテーブル停止時) OFF時：2W (50Hz) 1.8W (60Hz)
重量	12.5kg (ダンボール ケースは含みません)

付属品 EP アダプター..... 1

(注)・本機の仕様 および 外観は、改善のために予告なく変更することがあります。

寸法図



日本ビクター株式会社

ステレオ事業部

所在地 〒242 神奈川県大和市下鶴間甲10号1644番地
お問合せ ビクターインフォメーションセンター
〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番4号

(0462) 74-2121 (代表)
(03) 580-2861

Victor

エレクトロ サーボ プレーヤー システム

QL-Y7

ELECTRO-DYNAMIC SERVO TONE ARM

取扱説明書



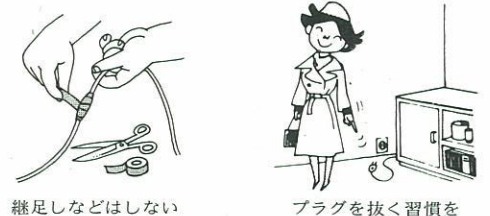
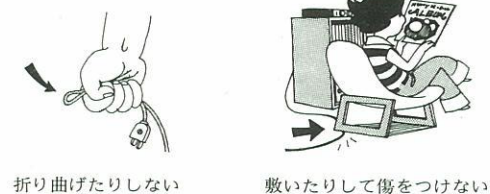
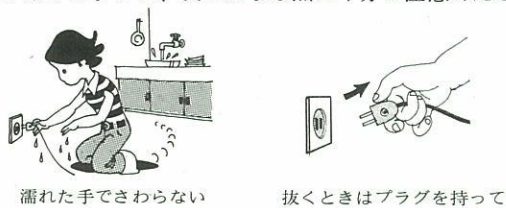
— お買いあげありがとうございます —

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとは、大切に保存してください。

ご注意

■ 安全上の注意

- ・電源電圧は、
交流 100V をご使用ください。
- ・電源周波数は、
50 Hz 地域 または 60 Hz 地域でもそのまま使用できます。
- ・電源コードを取り扱うときには、
電源コードの取り扱いがが悪いと、火災や感電の原因となる
ことがありますので、次のような点に十分ご注意ください。



- ・異常と感じたときは、
煙がでている、変な匂がする……
などの故障状態のまま使用すると危険です。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理にご依頼ください。



- ・セットの内部に触れることは、
危険なうえ故障の原因となります。
内部の点検・調整は、販売店へお任せください。



- ・水がこぼれたときは、
セットの上に花びん、化粧品、薬品
など水の入った容器を置かないでください。
万一内部に水が入った場合は、電源
プラグをコンセントから抜いて、販
売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電・
故障の原因となります。

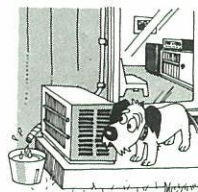


■ 取扱上の注意

- ・変形、変色、熱、雑音、破損、故障などを防止
するため、次のような場所はできるだけさけて
ください。



周囲温度が 0℃～40℃
の範囲を越える所



湿気の多い所



不安定な所



振動やホコリの多い所



寒い部屋から急に暖かい部
屋への移動



直射日光の当る所



暖房器のそば



テレビのそば

- ・外国での使用は？

本機は日本国内用に作
られていますので、電
源電圧、電源周波数の
異なる外国では、使用
できません。

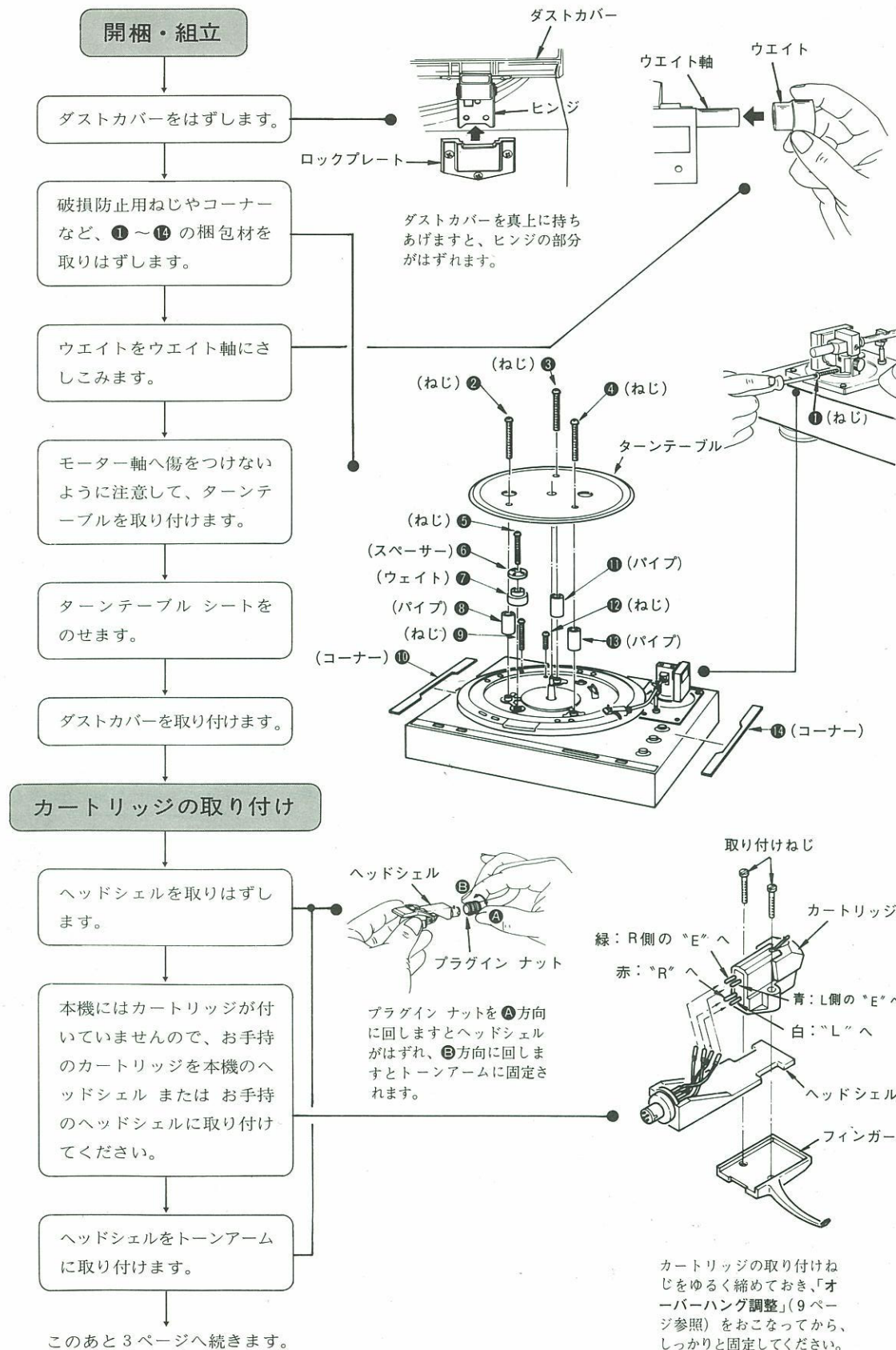


- ・キャビネットが汚れたら、
中性洗剤などで汚れを
落とし、乾いた布でふき
とります。
シンナーやベンジンな
どの使用は、ひび割れ、
変色を招きます。



準備

— すべての接続が終わるまで、電源プラグはコンセントにさしこまないでください —

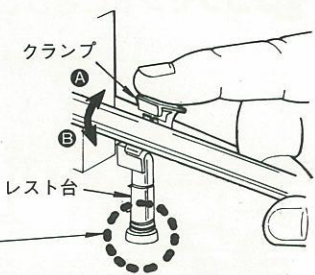


準備

■ 安全

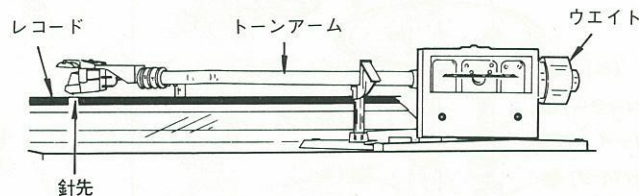
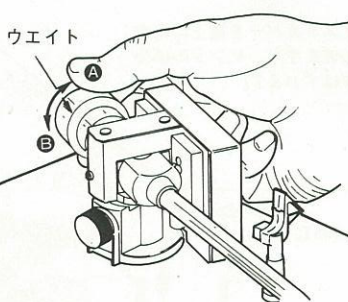
・電源プラグを抜くときは必ず電源スイッチをOFFにします。
・電源プラグを抜くときは必ず電源スイッチをOFFにします。
・電源プラグを抜くときは必ず電源スイッチをOFFにします。

▲方向にしますとクランプがはずれ、●方向にしますとクランプで固定されます。

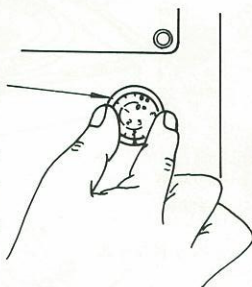


レスト台の下に1.5mm間隔で目盛が印されていますが、カートリッジとアームの高さ調整の関係をこの目盛で覚えておくと、とても便利です。

ウェイトを▲方向に回しますと針先がレコード面より浮きあがりますが、●方向に回しますとレコード面に近づきます。
なお、特別重いヘッドシェルやカートリッジをご使用のかたで、ゼロバランスがとれないときは、サブウェイトとしてSW-Y7型(価格1,500円/54年10月現在)が別売りにされていますのでご利用ください。



アンチ・スケーティング ツマミ
ANTI-SKATING ツマミ
丸針の場合には●印、楕円針やシバタ針の場合であれば●印の目盛に、使用するカートリッジの針圧と同じ数字に合わせる。



アンプ側の AC コンセントのうち、できるだけスイッチド "SWITCHED" 側につないでください。
白いプラグ
アンプ側の "PHONO" 端子のうち、左(L)チャンネルへ
アンプ側のアース端子へ
赤いプラグ
アンプ側の "PHONO" 端子のうち、右(R)チャンネルへ

アームの高さ調整

POWER スイッチを "OFF-ARM BALANCE" にします。(ボタンが上の方にもどされた状態になります)

クランプをはずします。

ターンテーブルにレコードをのせます。

ヘッドシェルのフックに指をかけてトーンアームをレコード面まで持ってゆき、針先がレコード面に触れるか触れない状態でトーンアームが水平となる高さを調整します。

ゼロ バランス調整

針先をレコード面にのせます。

ウェイトの部分を回し、針先がレコード面に触れるか触れない位置でウェイトを止めます。

トーンアームをレスト台にもどしてクランプで固定します。

使用するカートリッジの針圧に合わせて、TRACKING FORCE ツマミを回しますと、電氣的に針圧が加わります。

針圧と同じ数値になるように ANTI-SKATING ツマミを回します。

Q ダンピング調整

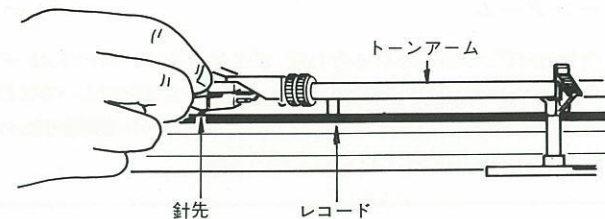
針圧と同じ数値になるよう、Q DAMPING ツマミを回します。

キャビネットの水平調整

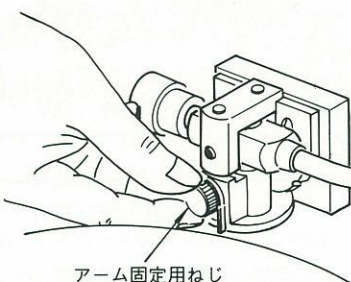
キャビネットが水平となるよう、脚の部分を回して調整します。

アンプへの接続

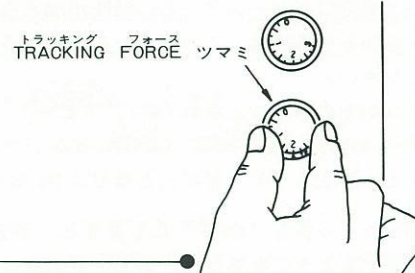
白いプラグの付いたコードをアンプ側の "PHONO" 端子左 (L) チャンネルに、赤いプラグの方は右 (R) チャンネルに接続します。
なお、アース ワイヤーはアンプ側のアース端子に接続してください。



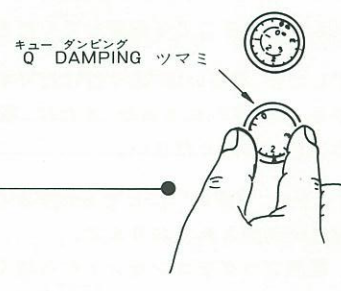
トーンアームが水平となるように、アーム固定用ねじでアームの高さを調整します。



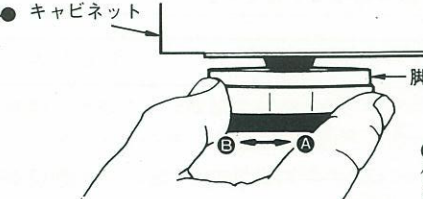
針先を傷つけないためにも、トーンアームの固定用ねじをゆるめたり、締めつけたりする場合には、アームをレスト台に固定してからおこなってください。



使用するカートリッジに合わせてこのツマミを切り替えます。
(例)・針圧が2gのときには、このツマミを "2" に合わせます。



本機では、水平方向と垂直方向のトーンアームの Q ダンピングを一つのツマミで同時に調整できるようにしています。



▲方向に回しますとキャビネットが低くなり、●方向に回しますと高くなります。

(注)・輸送中に脚がはずれないように固く締め付けてありますので、脚の裏側からプラスドライバーでゆるめて調整してください。

調整
レコードを聞くには(■)プレーヤー部の操作
主要部分の名称および働き

保証とアフターサービス
■アンプ部の操作
■レコードを上手に聞くコツ

故障?と思う前に
■レコードを録音する場合)

主要部分の名称および働き

■ 安全
・電圧
・電圧
・電圧
・電圧

トーンアーム

このトーンアームは、エレクトロ ダイナミック サーボ トーンアームと呼ばれているもので、針圧、アンチスケイティング、Q ダンピングなどトーンアームの動作がすべて電気的におこなわれ、しかもそれぞれが無接触のために機械的損失が全くなく、性能が大幅に向上いたしております。

速度切り替え スイッチ

レコードに合わせ、ターンテーブルの速度をこのスイッチで切り替えます。45回転レコードの場合には“45”のボタンを、また 33 $\frac{1}{3}$ 回転レコードの場合には“33”のボタンを押してください。スピード インジケータが点灯して、ターンテーブルの回転数を表示します。

POWER スイッチ

ON：このボタンを押（■）しますと、スピード インジケータが点灯してセットに電気がはいったことを表示すると同時に、トーンアームに針圧が加えられます。

OFF-ARM BALANCE：電気を切る場合には、このボタンを更にもう一度押してください。

ボタンが上の方にもどされ（■）、スピード インジケータ および QUARTZ LOCK インジケータが消えて、針圧も“0”（ゼロ）となります。

（注）・レコード演奏中に POWER スイッチを“OFF”にしますと、針圧がゼロとなってアームが自由運動をするようになるため、レコード演奏はできなくなり、レコードに傷をつけてしまうことがあります。

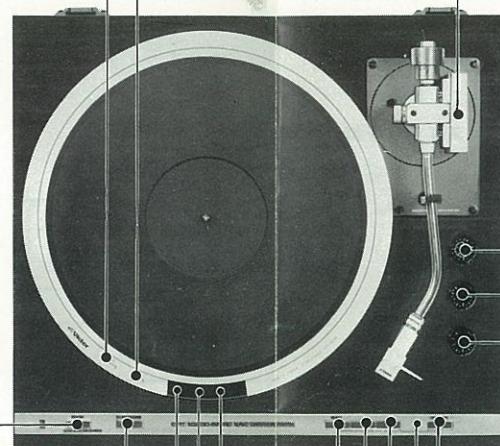
従って POWER スイッチを“OFF”にするときには、かならずトーンアームがレスト台にクランプされていることを確認してください。

- ・ターンテーブルを取りはずしたり あるいは 取り付けたりする場合には、かならず POWER スイッチを“OFF”にするか または 電源プラグをコンセントから抜いておこなうようにしてください。
- ・本機では、POWER スイッチを“OFF”にしてもわずかな電流が流れているため、2W (50Hz) の電力が消費されております。
- 従って使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜くか、または アンプ側のコンセントを使用されている場合は、“SWITCHED”側につないでアンプの電源と一緒に切ってください。

TT-START/STOP スイッチ

このボタンを押しますとターンテーブルが回転を始め、正規の回転数が得られて安定しますと、QUARTZ LOCK インジケータが点灯します。

ターンテーブルの回転をとめる場合には、このボタンを更にもう一度押してください。QUARTZ LOCK インジケータが消えると同時に、ブレーキがかかってターンテーブルが約半回転以内でとまります。



スピード
インジケータ (45)

QUARTZ LOCK
インジケータ

スピード
インジケータ (33)

REJECT スイッチ

レコード演奏を途中で中止する場合、このボタンを押しますと約半回転以内でターンテーブルが自動的にレスト台までもどります。

ANTI-SKATING ツマミ

求心力によってトーンアームが内側に引っぱられようとする力を打消し、針先のすべりやレコードの内周溝に加わる力を防止します。丸針は●印、楕円針やシバタ針の場合には●印の目盛に、使用するカートリッジの針圧と同じ数字に合わせてください。

Q DAMPING ツマミ

普通のトーンアームの低域共振点は、約 5 Hz~10Hz 近辺にあります。その共振点のピークが高すぎますと、外部から受ける振動や音圧により、トーンアームがその周波数で特別に大きく振動してしまったり、レコードのそりや偏芯の影響も容易に受けてしまい、音溝に対して忠実にトレースできなくなってしまいます。

そこでトーンアームの水平方向、垂直方向の動きを制動し、共振点のピークをさげる働きをするのがこのつまみです。従って Q DAMPING が働きますと、

1. トレース能力 および 音質の向上
2. ハウリングに強くなる。
3. S/N および ワウ・フラッターの向上

などの効果がありますので、針圧と同じ数値になるようにこのつまみで調整してください。

TRACKING FORCE ツマミ

使用するカートリッジの針圧に合わせてこのつまみを回しますと、電気的に所定の針圧が加わります。

UP/DOWN スイッチ

トーンアームをレコード面に降下させたいときには、このボタンを押してください。UP/DOWN インジケータが消えます。逆に持ちあげるときは、更にもう一度押してください。インジケータが点灯します。

UP/DOWN インジケータ

このインジケータはトーンアームがあがっているときに点灯し、さがると消えますが、REJECT または オートリタンのときには点灯しません。

トーンアーム送り スイッチ

トーンアームを手で移動させることは無論できますが、そのほかに下記のボタンを押すことによってトーンアームを任意の位置まで移動させることができますので、ダストカバーを閉じた状態でプレーヤーの操作ができる新しい機構です。

＜：このボタンを押している間はトーンアームが左へ移動しますが、手を離しますととまります。

＞：このボタンを押している間はトーンアームが右へ移動しますが、手を離しますととまります。

調整
レコードを聞くには（■）プレーヤー部の操作
主要部分の名称および働き

保証とアフターサービス
■ アンプ部の操作
■ レコードを上手に聞くコツ

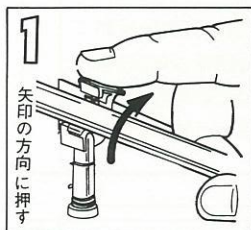
故障？と思う前に
■ レコードを録音する場合

レコードを聞くには

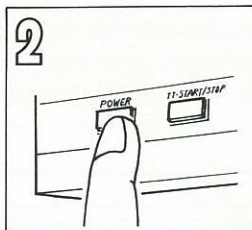
(説明のないツマミに関しては、「主要部分の名称および働き」

の項 5、6 ページをご参照ください)

■ プレーヤー部の操作

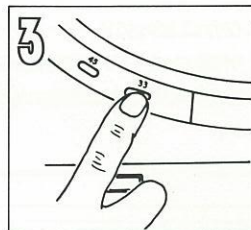


レコードをターンテーブルにのせ、レスト台のクランプをはずします。



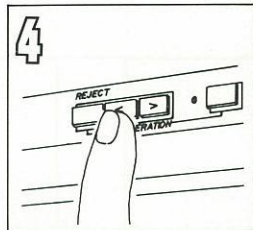
POWER スwitchのボタンを押(■)します。

(注)・レコード演奏中に POWER スwitchを“OFF”にしないでください。
“OFF”にしますと針圧が 0 (ゼロ) となるため、レコード演奏ができなくなります。

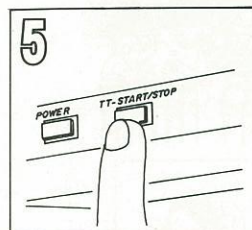


レコードの回転数に合わせ、ターンテーブルの速度を切り替えます。

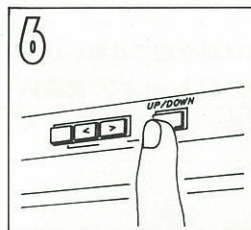
45回転レコード：
“45”のボタンを押します。
33 $\frac{1}{3}$ 回転レコード：
“33”のボタンを押します。



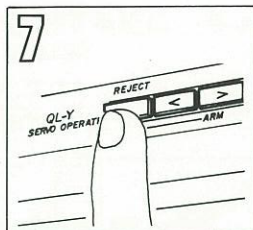
トーンアーム送り スwitchの“<”ボタンを押し続け、希望する位置までトーンアームが左へ移動したときに手を離します。
なお、トーンアームを微小に動かす必要ができたときには、トーンアーム送り スwitchを軽くトントンと叩くように押してください。



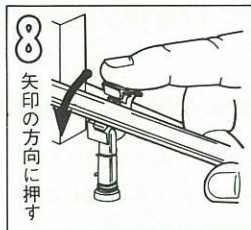
ターンテーブルの略スタート ストップ
TT-START/STOP スwitchのボタンを押します。
ターンテーブルが正規の回転数になりますと、QUARTZ LOCK インジケーターが点灯します。



アップ ダウン スwitchのボタンを押します。
トーンアームが静かにレコード面に降下し、レコード演奏が始まります。



レコード演奏が終了と自動的にトーンアームはレスト台までもどされますが、レコード演奏を途中で中止する場合には、REJECT スwitchのボタンを押すか、UP/DOWN スwitchのボタンを更にもう一度押してトーンアームを持ちあげてください。



トーンアームがレスト台にもどされたあと、クランプしてトーンアームを固定し、POWER スwitchのボタンをもう一度押してボタンを上の方にもどし(■)、セットの電気を切ってください。

■ アンプ部の操作

1. POWER スwitchを“ON”にします。
2. SOURCE スwitchを“PHONO”にします。(アンプによっては“SELECT”となっているものもあります)
3. アンプ側に SPEAKERS スwitchがあれば、スピーカーのつながる位置に切り替えます。
4. TAPE MONITOR スwitchを“OFF”にします。
5. レコード演奏を始めます。音量は VOLUME ツマミで適当に調整してください。
6. 音質調整 ツマミでお好みの音質となるように調整します。

(注)・レコードに針先をのせたまま、電源を切らないでください。

■ レコードを上手に聞くコツ

- ・レコードにとって一番の大敵は、ホコリです。
針先のホコリは針先洗浄液(市販品)で、またレコードはレコード クリーナー(布に湿気を帯びさせて使うものが良い)で溝のホコリをきれいにふきとります。
- ・針圧が軽すぎると“音とび”を起こしたり、音が歪んだりします。レコードは常に適正針圧でお聞きください。
- ・プレーヤーがスピーカーとくっつきあっていたり、振動の伝わりやすい所に置いていると、ハウリング(一種の発振現象で「ワーン」という大きな音)を起こす恐れがあります。



ホコリは大敵



針圧調整不良



ジャケットの中に



くっつけない

■ レコードを録音する場合

テープデッキを別にご用意ください。

1. テープデッキ および アンプの POWER スwitchを“ON”にします。
2. 「アンプ部の操作」の項(7ページ)をご参照のうえ、レコードがかけられる状態にしておきます。
3. 「プレーヤー部の操作」の項(7、8ページ)をご参照のうえ、録音したいレコードをかけてください。
4. 3ヘッド テープデッキでモニター(録音されていく様子を聞きながら)録音する場合には TAPE MONITOR スwitchをモニターの状態にしますが、それ以外の場合は“OFF”にしておいてください。
5. テープデッキ側を録音状態にします。録音レベル(録音される時の音の大きさ)の調整は、アンプ側の VOLUME ツマミではできませんので、テープデッキ側でおこなってください。
なお、詳細については、テープデッキ側の「取扱説明書」をご参照ください。

■ トーンアーム静止調整

トーンアーム送り スwitch または UP/DOWN スwitchでトーンアームが上っているときにトーンアームが静止せず、ごくわずかに右 または 左へ流れることがあります。これはトーンアームが高感度設計になっているためで、温度変化などに影響されることがあるからです。そのときは「アーム静止調整ツマミ」で調整してください。

・調整方法

カートリッジに針カバーを付けてターンテーブルをはずし、POWER スwitchを“ON”にします。次に UP/DOWN スwitchを“UP”にしてトーンアームをレコード演奏範囲内において静止するようにツマミを回して調整してください。

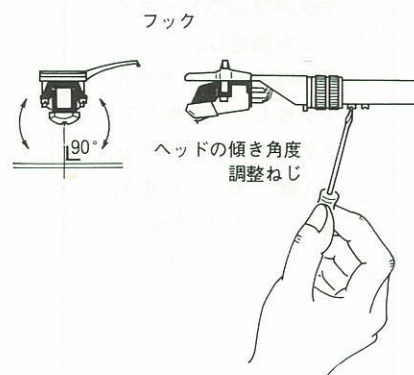


調整

次に示す調整は、カートリッジやヘッドシェルを取り付けたり、交換したときのみおこなうようにして、普段はいじらないでください。

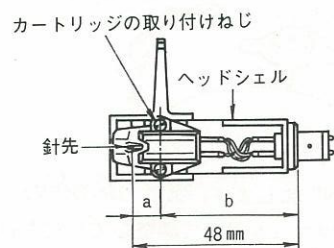
■ ヘッドシェル取り付け角度微調整

針先がレコード面と直角にならない場合には、ヘッドシェル固定ねじをゆるめて再調整してください。
この場合の直角度(90°)は、目視にて十分です。



■ オーバーハング調整

本機のヘッドシェルでオーバーハングを調整する場合、図のようにヘッドシェルの端から針先までの寸法が48mmとなるようにセットしてください。
本機のヘッドシェル上面には、ヘッドシェルの端からカートリッジの取り付けねじまでの寸法(b)がmm単位で表示されております。
カートリッジの取り付けねじから針先までの寸法を(a)mmとしますと、この寸法は一定しておりませんので、48mmからその寸法を差し引いたものをヘッドシェルの目盛に合わせれば、ものさしを使わなくてもオーバーハングの調整ができます。
なお、±1mm程度の誤差は、性能上問題ありません。



保証とアフターサービス

■ 保証書には、購入年月日などが必要
この商品には、保証書を別途添付しております。

保証書はお買いあげ販売店でお渡ししますので、所定事項の記入 および 記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

■ 保証期間

保証期間は、お買いあげ日より1年間です。
保証書の記載内容により、お買いあげ販売店が修理いたします。
そのほか詳細は、保証書をご覧ください。

■ アフターサービスについてのお問い合わせ

ご転居・ご贈答・その他アフターサービスについてご不明の点は、お買いあげ販売店 または 別紙「ビクター サービス窓口案内」をご覧のうえ、もよりのサービス窓口にお申し出、ご相談ください。

■ 保証期間経過後の修理

保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

■ 補修用性能部品の保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。
この期間は、通商産業省の指導によるものです。
なお、補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 修理依頼

修理を依頼されるときは、お手数でももう一度「故障?と思う前に」の項をよくご覧になってお調べください。
それでも具合が悪いときには、電源プラグをコンセントから抜いて、次のことをお知らせください。

- ・メーカー名、品名、型名
- ・おなまえ、おところ
- ・電話番号
- ・故障状態をできるだけ詳しく

故障?と思う前に



おや? 故障かな? と思ったら……
修理を依頼する前に、ちょっとお確かめください

■ 音がでない



コードがはずれていませんか。



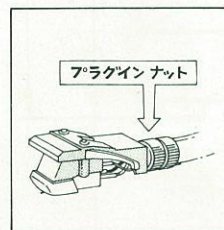
コードは忘れず、確実に。



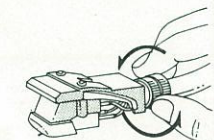
接続を間違えていませんか。



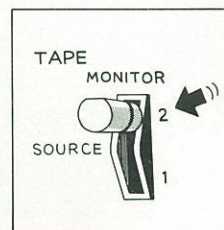
「準備」の項(3、4ページ)をご参照ください。



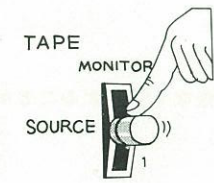
プラグイン ナットがゆるんでいませんか。



プラグイン ナットでヘッドをしっかり固定します。

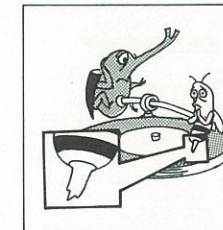


アンプ側の TAPE MONITOR スイッチが「MONITOR」の状態になっていませんか。



テープ モニター TAPE MONITOR スイッチを「SOURCE」にします。

■ 雑音で聞き苦しい



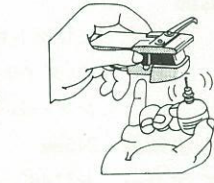
レコード針が摩耗していませんか。



新しいレコード針に交換します。



針先にホコリが付いていませんか。



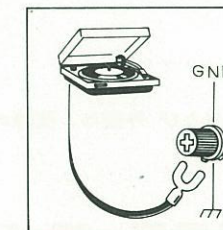
針先のホコリは、針先洗浄液(市販品)できれいにふきとってください。



レコードが古かったり、ホコリが付いていたりしませんか。



レコード クリーナーでレコード溝のホコリをきれいにふきとってください。



接続コードがゆるんでいたり、アース線がはずれていませんか。



接続コードやアース線は、確実に接続してください。